

○平成 28 年度教育遺産世界遺産登録推進協議会会議(平成 28 年 5 月 29 日開催)議事録

1 日 時 平成 28 年 5 月 29 日 (日) 午後 3 時から午後 3 時 45 分

2 場 所 AP 品川 9 階 J+K ルーム

3 出席者

会長・水戸市長
高 橋 靖

副会長・足利市長
和 泉 聡

備前市副市長
有 吉 隆 之

日田市副市長
大 塚 勇 二

水戸市教育委員会教育長
本 多 清 峰

足利市教育委員会教育長
若 井 祐 平

備前市教育委員会教育長
杉 浦 俊 太 郎

日田市教育庁教育次長
鈴 木 俊 行

水戸商工会議所会頭
和 田 祐 之 介

足利商工会議所会頭
早 川 慶 治 郎

備前商工会議所会頭
長 崎 信 行

日田商工会議所会頭
高 山 英 彦

水戸市世界遺産登録検討
専門委員座長
日 高 健 一 郎

足利市世界遺産検討会議
座長
橋 本 昭 彦

旧閑谷学校世界遺産登録
検討専門委員
荒 木 勝

茨城県教育庁総務企画部
文化課長
入 野 浩 美

栃木県教育委員会事務局
文化財課長
平 野 裕

岡山県教育庁
文化財課長
小 見 山 晃

大分県教育庁
文化課長
佐 藤 晃 洋

4 議題

報告第 1 号 平成 27 年度教育遺産世界遺産登録推進協議会事業報告について

認定第 1 号 平成 27 年度教育遺産世界遺産登録推進協議会歳入歳出決算について

議案第 1 号 平成 28 年度教育遺産世界遺産登録推進協議会事業計画・予算について

5 会議の内容

高橋靖水戸市長，和泉聡足利市長，有吉隆之備前市副市長，大塚勇二日田市副市長のあいさつ，委員の異動の紹介（旧閑谷学校世界遺産登録検討専門委員 荒木勝岡山大学理事・副学長，茨城県教育庁総務企画部 入野浩美文化課長，栃木県教育委員会事務局 平野裕文化財課長，岡山県教育庁 小見山晃文化財課長，大分県教育庁 佐藤晃洋文化課長）の後に議事に入る。

報告第1号 平成27年度教育遺産世界遺産登録推進協議会事業報告について

○会 長 報告第1号 平成27年度教育遺産世界遺産登録推進協議会事業報告について，事務局から説明をお願いします。

○事務局 2ページをお開きください。

始めに，「世界遺産登録推進事業」につきまして報告いたします。

まず，「1 協議会の開催等」につきましては，平成27年5月15日に幹事会を開催した後，平成27年5月31日に協議会の会議を開催いたしました。会議では平成26年度の事業報告，歳入歳出決算，規約・規程の改正，平成27年度の事業計画・予算について協議し，いずれも承認されました。

3ページをご覧ください。

専門部会につきましては，平成28年1月18日に，A，B，C 合同による部会を開催し，平成28年度の世界遺産登録及び日本遺産の事業などについて協議をいたしました。

国際シンポジウムにつきましては，平成28年2月21日に備前市で開催され，「近世日本の教育」をテーマに，関西大学教授で中国出身の陶徳民先生による記念講演のほか，本日御出席をいただいております，日高先生，橋本先生を始めとした各分野の専門家の先生方によるパネルディスカッションを行いました。

「2 調査研究事業」につきましては，専門部会やシンポジウムの開催を通じまして，登録推進戦略や国内外の教育遺産の評価などの調査を進めました。

4ページをお開きください。

「3 普及啓発事業」につきましては，協議会ホームページの多言語による運営や，先ほど説明しました国際シンポジウムを開催し，世界遺産登録推進事業の周知を広く行いました。

5ページをご覧ください。

続きまして，「日本遺産魅力発信推進事業」につきまして，報告いたします。

昨年4月に日本遺産に認定された「近世日本の教育遺産群ー学ぶ心・礼節の本源ー」の魅力を発信するため，国の補助金を活用して事業を実施しました。補助金を活用した主な事業は，1から3に記載されたものでございます。

「1 情報発信，人材育成事業」でございますが，日本語，英語など多言語に対応したパンフレットの作成や，日本遺産の内容を説明できるようになってもらうための案内ボランティア養成講座の開催や，駅や空港，ホームページを活用したPRなどを実施いたしました。

「2 普及啓発事業」でございますが，市民や留学生を対象としたモニターツアーの開催や，足利市における「近世日本の教育遺産」サミットや，備前市において「日本遺産関

連企画展」などを実施いたしました。

「3 公開活用のための整備に係る事業」でございますが、案内看板の設置などを実施いたしました。

「4 シンポジウムへの参加」でございますが、平成27年6月29日に東京国立博物館にて文化庁主催の「日本遺産フォーラム」に参加し、4市を代表しまして足利市の和泉市長が日本遺産の認定証の交付を受けるとともに、展示ブースを設置し、参加者へのPRを行いました。

平成28年2月20日には、兵庫県篠山市にて、日本遺産の認定自治体で組織されます日本遺産連盟の主催による「日本遺産フォーラム in 丹波篠山」に、水戸市の本多教育長、備前市の武内副市長が参加しました。その中で、日本遺産の認定後の4市の取組につきまして、水戸市の本多教育長が報告いたしました。

このように日本遺産の魅力を発信したことにより、水戸市の弘道館では年間の入館者数が、前年度比で3割増加したほか、水戸市の偕楽園では1.8%、足利市の足利学校では5.6%、備前市の旧閑谷学校では3.5%、日田市の咸宜園では9.4%ほど増加いたしました。

説明については以上でございます。

○会 長 只今の事務局の説明について、御質問や御意見等がありましたら、お願いいたします。ございませんか。

【「異議なし」の声あり】

○会 長 御質問等がないようでしたら、次の議題に移らせていただきます。

認定第1号 平成27年度教育遺産世界遺産登録推進協議会歳入歳出決算について

○会 長 次に、認定第1号 平成27年度教育遺産世界遺産登録推進協議会歳入歳出決算について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 7ページをお開きください。歳入の部でございますが、歳入決算総額は、5,664万6,399円でございます。

内訳といたしましては、各市の負担金として386万4千円のほか、前年度の繰越金、預金利子となっております。

8ページをお開きください。

次に歳出の部でございますが、歳出決算総額は、5,411万5,385円となっております。

「項 1 世界遺産登録推進費」の主な内訳といたしましては、国際シンポジウム開催に伴う補助金、協議会のホームページ関連業務の委託料のほか、専門部会などの開催に要した費用でございます。

「項 2 日本遺産関係費」の主な内訳といたしましては、広告掲載や映像製作のための委託料、パンフレットの印刷製本などの需用費、案内板設置などの工事請負費でございます。

歳入総額5,664万6,399円から、歳出総額5,411万5,385円を差引いた額253万1,014円につきましては、平成28年度に繰り越すことといたします。

なお、「項 2 日本遺産関係費」の予算額から決算額を引いた比較増減の額が大きいのは、予算編成後に、国の補助金の交付額が減少したことに伴い、執行額も減少したためでございます。

9ページをご覧ください。

当協議会規約第11条に基づき、足利市、備前市、日田市の両会計管理者によります監査が実施され、適正な処理であったとの報告がございました。

説明については以上でございます。

○会 長 只今の事務局の説明について、御質問や御意見等がありましたら、お願いいたします。ございませんか。

【特になし】

○会 長 それでは、認定第1号につきましては、この内容により認定することとしてよろしいでしょうか。

【「異議なし」の声あり】

○会 長 ありがとうございます。

議案第1号 平成28年度教育遺産世界遺産登録推進協議会事業計画・予算について

○会 長 それでは次に、議案第1号 平成28年度教育遺産世界遺産登録推進協議会事業計画・予算について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 11ページをお開きください。

はじめに、平成28年度の事業計画でございます。

まず、世界遺産登録推進事業といたしまして、「1 調査研究事業」、「2 普及啓発事業」の2つを計画の柱とし、それ以外のものを、3 その他に位置づけております。

まず、1の調査研究事業につきましては、(1) 専門部会の開催、(2) 文化庁との意見交換会を行います。

このうち、専門部会の開催につきましては、昨年度と同様にA・B・C合同で会議を開くことし、調査研究を進めるため、年3回の実施を予定しております。また、これらの会議の成果を踏まえて、文化庁との意見交換会も開催していく予定です。

次に、普及啓発事業といたしましては、協議会のホームページをさらに見やすくし、各市からも情報を簡単に掲載できるよう、リニューアルする予定でございます。

その他といたしまして、本日の協議会の開催のほか、幹事会、事務連絡会議などを記載のとおり実施してまいります。

12ページをお開きください。

日本遺産に関しましては、昨年度に引き続き、当協議会が事業主体となり、国の補助事業を活用して、「日本遺産魅力発信推進事業」を実施してまいります。

資料の1、2に補助事業の主なものを記載しております。

「1 情報発信，人材育成事業」でございますが，TBS 系列で日曜午後6時から放映している「世界遺産」という番組のスタッフによる，映像製作及びBSでの番組制作や，備前市及び日田市での案内ボランティアの養成講座の開催，駅にあるモニターを使用した宣伝や国内線機内誌への広告掲載，日田市で使用しているスマートフォン向けのアプリの機能拡充などを実施いたします。

「2 普及啓発事業」でございますが，足利市において，東京在住の方を対象としたモニターツアーの実施，水戸市においてのシンポジウムの開催，備前市での日本遺産企画展などを実施いたします。

「3 シンポジウムへの参加」でございますが，平成28年7月1日に岐阜市において，文化庁及び岐阜市主催の「日本遺産サミット in 岐阜」に参加し，展示ブースを設置し，参加者に「近世日本の教育遺産群」のPRを実施してまいります。

13 ページをお開きください。

続きまして，平成28年度の予算について御説明いたします。

はじめに，歳入歳出予算の総額でございますが，それぞれ3,533万1千円となっております。その款項の区分及び当該区分ごとの金額は，「別表 歳入歳出予算」のとおりでございます。

なお，この歳出予算に計上した予算額に過不足を生じた場合は，款相互の金額は，必要に応じて流用することができることとしております。

14 ページをお開きください。事項別明細でございます。

まず，歳入の「負担金」386万4千円は，各市の負担金として，説明欄に記載のとおり，均等割と人口割により積算をしております。

「補助金」の2,893万5千円は，日本遺産魅力発信推進事業に伴う国からの補助金でございます。

「繰越金」の253万1千円は，前年度からの繰越金でございます。

「諸収入」の1千円は，預金利子を計上したものでございます。

15 ページをご覧ください。

次に，歳出の「項 1 世界遺産登録推進費」613万4千円は，説明欄に記載のとおり，専門部会等の開催に要する報償費や旅費のほか，消耗品費，印刷製本費などを計上したものでございます。

歳出の「項 2 日本遺産関係費」2,919万6千円は，説明欄のとおり，広告掲載，映像制作などの委託料，パンフレットの作成のための印刷製本費などを計上いたしましたものでございます。

説明について以上でございます。

- 会 長** 只今の事務局の説明について，御質問や御意見等がありましたらお願いいたします。
事務局の説明では，日本遺産に関するものが多かったと思いますが，世界遺産の暫定リストへの追加に関する情報は何かありませんか。
- 事務局** 国に継続的に問い合わせしていますが，追加の時期については未定との回答をいただいております。
- 会 長** 日本遺産の補助金に関する国の動向はどうか。
- 事務局** 国からは，日本遺産認定後3年間は補助金の交付を考えており，当協議会への補助は，

平成 29 年度までと言われております。

また、日本遺産の新規認定が増加することに伴い、平成 29 年度の補助金の額は、平成 28 年度の半分ほどになる可能性があるとのこと。

○橋本委員 11 ページの「1 調査研究事業」の文化庁との意見交換会は、文化庁のどういう方と実施するのか、今年度の予定もしくは過去の実施例を教えてください。できれば、意見交換会が事務局担当者の気持ちを明るくするものとなり、事業が前進するとよいし、我々専門家もどのような準備をするべきか、どのように動機付けするのということがあります。

○事務局 前回は平成 25 年 8 月に実施し、世界遺産文化遺産室から調査官、係長、担当者が御出席していただき、こちらは各県の担当者、各市の担当課長が出席しました。

今年度の意見交換会は、記念物課長、世界文化遺産室長、担当調査官の御出席をいただくことを考えております。

○会長 意見交換会のほか、11 ページの「3 その他」にあります文化庁への要望につきましては、その効果がどの程度あるかは、はっきりと申し上げられませんが、行って損はありませんので、今年度はしかるべき時期に、しかるべき相手に対して実施したいと考えております。

○早川委員 日本遺産の魅力を発信する事業が今年度も多く盛り込まれていますが、4 市が連携して行うものと、各地域で独自に、個別に行うものに分けて実施したらどうでしょうか。それと、最近の世界遺産登録の状況を見ると、「明治日本の産業革命遺産」が 23 資産で構成されており、明治の奇跡的な近代化を支えた近世日本の教育遺産群を考えたとき、その時代の色々な教育遺産を洗い出し、その枠を広げてはどうでしょうか。イコモスやユネスコの実情に詳しい方に意見やアドバイスをもらいながら、戦略的に世界遺産登録を進めてほしい。

○事務局 資料の 12 ページのうち、BS での番組放送と国内線機内誌を利用した PR につきましては、4 市共通の事業でございます。

その他につきましては、各市での事業となっており、例えば、水戸市ではシンポジウムの開催、足利市では国宝漢籍の公開、備前市では企画展の開催、日田市ではアプリの機能拡充の事業がございます。

次に、教育遺産群の枠を広げることにしましては、協議会の専門家の皆様と協議し、検討してまいります。

なお、日本遺産につきましては、文化庁から新たな教育遺産を追加してはどうかという御提案は頂いておりますが、補助金の交付は平成 29 年度で終了となり、額も減少する予定で、教育遺産を追加することにより、各市の割り当ての額が 4 市のときよりも減少するという課題がございます。今後、幹事会などで協議してまいります。

○会長 教育遺産群の枠を広げることにしまして、補助金の問題は別として、世界遺産登録の観点から専門家でもあります 3 人の委員の皆様は何か御意見ございませんか。

○荒木委員 これまでの塾は庶民への広がりはありましたが、商人の塾など他では見られない日本に特徴的とも思われる塾や学校制度を採り入れれば、インパクトが出てくると思います。

2 点目は世界の国々が着目するということを考えたとき、特に幕末にオランダなどの外国と交流していたような塾を入れると、かなり強いインパクトを持った訴えかけができるのではないのでしょうか。長崎の鳴滝塾や大坂の適塾、千葉の順天堂などは塾であると同時に

に、海外との文芸の交流も展開されています。そういった世界的な視野を入れた形での訴えかけの観点から言いますと、教育遺産をもう少し広げての近世日本の教育の展開は大変おもしろいものになるのではないのでしょうか。

○橋本委員 教育遺産を広げることにつきましては、私が座長を務めます専門部会Bにおきましても、意見が分かれております。広げることにつきましては、荒木先生がおっしゃったことが言われますが、一方、対象の教育遺産が「物」として残っているのか、評価しうるのかという、意見も出ております。専門部会Bの中でも検討していきますが、登録戦略を担う専門部会Aにも関わることで、Aの先生方の意見もあろうかと思えます。今後、委員の皆様へ報告できるよう進めていきたいと思えます。

また、検討すべきこととして、「教育遺産」なのか「学校遺産」で揺れていることがあります。平成25年くらいまでは「学校遺産」という言葉を使用しており、足利市世界遺産検討会議の前座長の入江先生が、学校遺産であれば、「スクールシステム」として売り出していけるのではないかと、しかも西洋よりも古いものではないかとおっしゃっていました。しかし、「教育遺産」となると「スクール」ではなく「エデュケーション」となるので、その点をどうするのか、熟議が必要ではないかと思えます。

○日高委員 荒木委員と同様に教育遺産を広げること賛成ですが、儒学の流れでまとめるのか、蘭学などを含んだ幕末の多様な教育も視野に入れるのかにつきまして、専門部会でも意見交換をしてきたところですが、3市から4市になった経緯もあり、儒学を中心とした教育遺産で落ち着いております。

ただ、私自身は、広い視野を持ち、世界に訴えかけることができる日本の代表としての教育遺産群を形成してもよいと思えます。

専門委員の先生の入替わりや、備前市の専門委員の先生が加わったこともありますので、ここで一度、近世日本の教育をどの範囲で捉えるのか、学術的な議論が必要になってくると思えます。

また、こういった教育の流れは突発的に生まれたわけではなく、中国や韓国から伝わってきております。現在、我が国と韓国との間には微妙な政治的関係がありますが、もし両国に共通するような教育遺産の流れがあれば、ユニスコが非常に歓迎している「国境を超える遺産」となります。ちょっと話が広がり過ぎますが、世界に打って出ようというときに、日本だけで個別にまとまっているのか、専門委員の先生と話し合っていきたいと思えます。

○会 長 3人の専門家の委員の皆様からは大変貴重な御意見をいただきました。財源の問題もあるかもしれませんが、我々としては、世界遺産登録に優先的に取組みたいと考えております。教育遺産を広げることや枠組みにつきましては、専門部会で先生方に御議論していただき熟度を上げていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。ほかにございますか。

○和泉副会長 3人の先生からの御意見を聞かせていただき、非常に参考になりました。色々な捉え方があることがわかるとともに、そのような可能性を探ることが非常に大切で、先生方の御議論を是非お願ひしたいと思えます。

○会 長 それでは、議案第1号につきましては、この内容により決定することとしてよろしいでしょうか。

【「異議なし」の声あり】

○会 長 ありがとうございます。その他ですが、何かございますか。
ないようですので、以上で、協議会を終わりにいたします。
本日は、ご協力いただきまして、ありがとうございました。